

糸

第一学年主任 高橋 勇輔

今学期も本校の教育活動へのご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

歌手・中島みゆきさんの楽曲に「糸」というタイトルの曲があります。この曲の歌詞は、自分自身を「よこ糸」、人生で出会う人々を「たて糸」と喩えていて、互いの糸が交わること（＝人と人が出会い、親密になること）で「布」が織りなされ、それが別の誰かを暖め、誰かの傷をかばうと詠われています。

2学期は全校行事の「体育祭」「合唱コンクール」この二つが無事に開催されたことを、大変喜ばしく感じます。とは言っても1学年の保護者の皆様におかれましては、ご来校・ご観覧を控えていただくこととなり、当方といたしましても非常に残念でした。皆様の見たかった気持ちを煽るようで恐縮ですが、お子様たち、大変よく頑張っていました。練習期間においては、苦しみや困難、壁に当たりました。それらを乗り越え、各々が立派に活躍してくれて、もう嬉しくてたまりません。行事の感想文を読むと、充実していた学期だったことが伺えます。

それもこれも3年生のお陰です。1学年の保護者の皆様あての文章に書くのは、失礼かもしれませんが、少々語らせていただきます。

本校の誇る最高学年の先輩方がよきお手本となり、後輩たちを引っ張ってくれました。3年生は全力で、真剣に、本気で楽しみながら熱く、生きています。だから、1年生は3年生が大好き。こうなりたいという憧れと理想を抱いています。中学校生活の最初にこのような先輩がいてくれてよかったです。いつか、この子たちがこういう先輩になってほしいと、心から願っています。

行事を通して、お互いを知り、絆が深まりました。クラスや学年の絆も深まり、44期生の『よこの糸』は一学期よりも強くなりました。

本校の行事には縦割りという上級生との交流があります。お手本となる存在との交流は、先輩という美しく立派な『たての糸』との交わりでした。

織りなされた「布」は、神根中学校の感動的な物語となりました。「紡ぐ」という言葉は、「糸」にも「物語」にも使われる言葉です。美しく上質な糸【物語】が紡がれました。

「糸」の歌詞の最後は次のように締めくくられています。

「逢うべき糸に 出逢えることを人は ^{しあわ} 合せと呼びます」

入学式から8か月。改めてお子様にめぐり逢えたことを、幸せだと感じております。これもひとえに保護者の皆様のお力添えのお陰であることと存じ上げております。3学期も引き続きよろしくお願い致します。